



エッジクラスターシステム

取扱説明書

2025 年 3 月

改訂履歴

版数	発行日	改定章	改訂内容
初版	2022/8/10	-	初版発行
1	2022/10/10	3	プラグインのバージョンが違う場合の画面表記の違いを追記
		3.3	取得情報の画像変更
		4.2	項目の設定説明内容追加
		4.3 4.4	項目設定の数式(関数)内容を章追加
		6.1 6.2 6.3	システム設定に「システム状況」「JDBC・プラグイン」の設定章追加
2	2022/11/10	はじめに	商標修正
		多数	書式、レイアウト修正
UMC0000-1	2023/4/14	-	新管理番号取得
		はじめに	バージョン 1.2.0
		4.4	関数追加
UMC0000-2	2023/6/16	3.1	項目の禁止文字追加
UMC0000-3	2023/9/13	5	コネクトタグについて追記
UMC0000-4	2023/11/	はじめに	バージョン 1.3.0
		6 6.3	設定のエクスポート/インポート追加
UMC0000-5	2025/3/31	はじめに	バージョン 1.4.0
		3.3	3.2.1 章を 3.3 章へ変更
		4.1	実績データの登録追加
		6.4	データ保存設定追加
		7	制限事項追加

はじめに

このたびは、当社開発のXC-Connectをご利用いただき誠にありがとうございます。
本書は、XC-Connectを使って各種データ連携のご利用するための手順を記載したものです。
XC-Gate.V3の操作については「XC-Gate.V3 取扱説明書 管理者編」をお読みください。

対象商品

- XC- Connect v1.4.0～

対象者

本書では対象者を以下のように想定します。

- XC-Connectシステムの構築エンジニア
- XC-Gate.V3で帳票を開発する帳票開発者

商標について

- Microsoft、Windows、Aero、Excel、Outlook、PowerPoint、Windows Media、Microsoft Edge、Windows ロゴ、Windows スタートロゴ、Officeロゴは、米国Microsoft Corporationの米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。
- Apple、iPad、iPhone、Safariは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- Google および Google ロゴ、Android および Android ロゴ、Google Apps for Business、Google Chrome、Google Chrome ロゴ、Android Wear、Nexus は、Google Inc.の商標または登録商標です。
- AMD、AMD Turion™、AMD Athlon™、AMD Sempron™ は、Advanced Micro Devices,Incの商標です。
- GIFは、米国CompuServe Inc.が開発したフォーマットの名称ならびにサービス名称です。
- VMwareおよびVMwareの製品名は、VMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。
- QRコード/QR Codeは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

凡例

画像について

本書に使用されている画面は、Webブラウザによって文字のサイズや画像の配置などの表示が異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

ボタン

画面のボタンは[]で表記します。

例) [ログイン]をクリックします。

参照先

本書内に参照先がある場合は（章番号/節番号）、（Pページ番号）で表記します。

例) チェックシートの登録方法については（**4.1**）を参照してください。
フォルダー一覧から使用するチェックシートを選択します。（**P4-6**）

もくじ

改訂履歴	1
はじめに	2
凡例	3
もくじ	4
1 XC-CONNECTの概要	6
1.1 概要	6
1.2 システム構成図	7
1.3 XC-Connectの設定	8
2 TOP画面	9
2.1 ヘッダー画面	10
3 機器設定	11
3.1 XC-Gate.V3帳票からデータの取得	11
3.2 PLCからデータの取得	15
3.3 データベース(入力)からデータの取得	18
4 転送設定	21
4.1 XC-Gate.V3実績データの登録	21
4.2 XC-Gate.V3帳票へデータの登録	28
4.3 データベース(出力)へデータの登録	31
4.4 項目設定(関数)	36
4.5 転送設定で利用できる関数一覧	38
4.5.1 論理	38
4.5.2 文字列操作	38
4.5.3 日付/時刻	39
4.5.4 数学/三角	41
4.5.5 エンジニアリング	43
4.5.6 情報	43
4.5.7 その他	44
5 タグ設定	45
6 システム設定	48
6.1 システム状況の確認	50
6.2 JDBCファイルの設定	51
6.3 設定のエクスポート/インポート	52
6.3.1 設定のエクスポート	52
6.3.2 設定のインポート	54
6.4 データ保存設定	56
6.5 プラグインの設定	58
7 制限事項	59
7.1 XC-Gate.V3クラウドサーバへのアクセス制限	59
7.2 コネクトタグの実行制限	59

1 XC-Connect の概要

1.1 概要

XC-Connectを使用すると、XC-Gate.V3、及びデータベース、PLC、OPCサーバー、計測機器など外部データとのデータ連携を行うことができます。

- 別システム、データベースの参照
別システムで管理している生産計画や原材料情報をXC-Gate.V3の帳票上に参照することができます。
- PLC、OPCUAサーバー、計測機器の情報取得
PLCをはじめとする機器が持つ、数値や稼働情報、検査データ等をXC-Gate.V3の帳票上に参照することができます。
- XC-Gate.V3で入力したデータの転送
XC-Gate.V3帳票で入力したデータを別のデータベースに書き込むことができます。

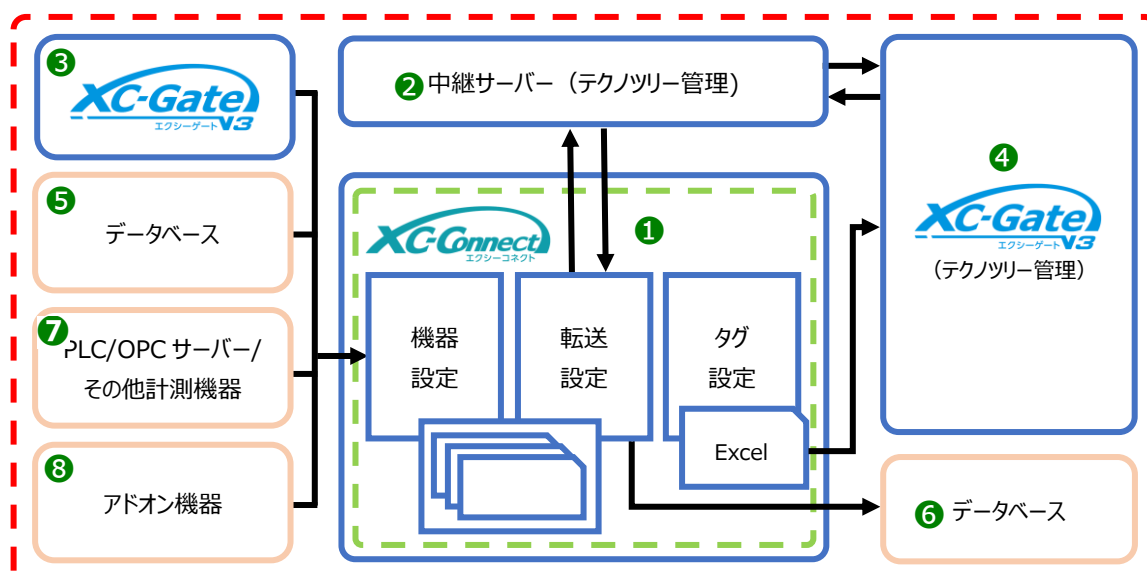
データの取得元と、取得した情報の保存先を設定することで以下の転送を柔軟に行うことができます。

- XC-Gate.V3帳票から別のXC-Gate.V3帳票へデータの転送
- 計測機器からXC-Gate.V3帳票へデータ転送
- XC-Gate.V3帳票からデータベースへ転送

また、プラグイン機能により、外部データと簡易に接続できる仕組みを追加することができます。

1.2 システム構成図

XC-Connectのシステム構成は下図の通りです。



青枠：XC-Connect並びにXC-Gate.V3

橙枠：外部データ

No.	システム名	概要
1	XC-Connect	エッジクラスターシステム(本書説明のツール)
		機器設定 XC-Connect にデータを取得するための機能
		転送設定 XC-Connect のデータを送信するための機能
		タグ設定 XC-Gate.V3 帳票へデータを反映するための機能
2	中継サーバー	XC-Gate.V3 帳票にデータを送信するための中継サーバー
3	XC-Gate.V3 帳票(入力)	帳票電子化クラウドサービス「XC-Gate.V3」で入力を行う電子帳票
4	XC-Gate.V3 帳票(出力)	帳票電子化クラウドサービス「XC-Gate.V3」で入力を行う電子帳票
5	データベース(入力)	XC-Gate.V3 帳票等にデータを取得する元のデータベース
6	データベース(出力)	XC-Gate.V3 帳票等のデータを送信する先のデータベース
7	PLC/OPCUA サーバー/ その他計測機器	XC-Gate.V3 帳票等にデータを取得する元の各種機器やサービス
8	追加機器/追加サービス	プラグイン機能によってお客様の要件に合わせた機器の接続を追加

1.3 XC-Connect の設定

XC-Connectの設定をするための流れや概要を説明します。

1) 機器設定

- a) メーカー/機種/プロトコルを選択し、「接続情報」の設定をします。
- b) 「接続情報」で設定した機器から「取得する項目」を設定します。



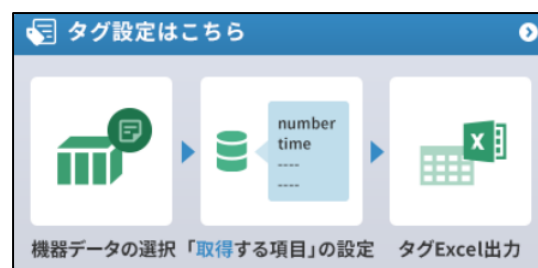
2) 転送設定

- a) カテゴリ/プロトコルを選択し、「接続情報」の設定をします。
- b) 「接続情報」で設定した機器から「送信する項目」を設定します。



3) タグ設定

- a) 機器データの選択で「機器設定」で設定した取得データを指定します。
- b) 機器データからタグで「取得する項目」を設定します。
- c) XC-Gate.V3用のタグが設定されたExcelを出力します。
出力されたExcelの内容をもとに、XC-Gate.V3の帳票を作成します。



接続する種類別の組み合わせと設定例

取得元	送信先	設定例	参照
XC-Gate.V3 帳票	XC-Gate.V3 帳票	機器設定の流れ XC-Gate.V3 帳票からデータの取得	3.1
		転送設定の流れ XC-Gate.V3 帳票へデータの登録	4.2
		タグ設定の流れ	5
XC-Gate.V3 帳票	データベース(出力)	機器設定の流れ XC-Gate.V3 帳票からデータの取得	3.1
		転送設定の流れ データベース(出力)へデータの登録	4.3
		タグ設定の流れ	5
PLC/OPC サーバー/ その他計測機器	XC-Gate.V3 帳票	機器設定の流れ PLC からデータの取得	3.2
		転送設定の流れ XC-Gate.V3 帳票へデータの登録	4.2
		タグ設定の流れ	5
データベース(入力)	XC-Gate-V3 帳票	機器設定の流れ データベース(入力)からデータ取得	3.3
		転送設定の流れ XC-Gate.V3 帳票へデータの登録	4.2
		タグ設定の流れ	5
データベース(入力)	XC-Gate-V3 実績	機器設定の流れ データベース(入力)からデータ取得	3.3
		転送設定の流れ XC-Gate.V3 実績へデータの登録	4.1

※ 上記以外の組み合わせも可能となっております。

2 TOP 画面

XC-Connectを起動したときの初期画面です。
TOPページ画面で項目を選択し、各種作業を開始します。



No.	名称	概要	参照
1	ヘッダー	各画面共通です	2.1
2	機器設定	接続情報で取得した機器を設定します	3
3	転送設定	接続情報で設定した機器から送信する項目を設定します	4
4	タグ設定	機器設定で設定した取得データのタグの項目を指定し、Excel 出力します	5
5	システム設定	XC-Connect のシステム設定をします	6
6	XC-Connect 説明書	XC-Connect の取扱説明書の閲覧、PDF ファイルのダウンロードを行います	-

2.1 ヘッダー画面

XC-Connectシステムのヘッダーを概要です。



No.	名称	ヘッダーの概要	参照
1	TOP	初期表示画面です。 XC-Connect の設定の流れについての説明画面となります。	2
2	機器設定	機器設定の一覧と、新規追加、修正、削除を行う画面となります。 どこからデータを取得するかを設定できます。	3
3	転送設定	転送設定の一覧と、新規追加、修正、削除を行う画面となります。 どこへデータを転送するかを設定できます。	4
4	タグ設定	タグ設定の一覧と、新規追加、修正、削除を行う画面となります。 XC-Gate.V3 のタグを設定して、XC-Gate.V3 帳票に反映できます。	5
5	システム設定	JDBCドライバやプラグインの追加などの設定ができます。	6
6	ログアウト	XC-Connect を終了し、ログアウトします。	—

3 機器設定

XC-Connectの各種機器設定を説明します。



ポイント

- XC-Gate.V3 帳票、データベース、PLC 機器等の違いにより、設定する項目が違います。
- プラグインのバージョンにより本取扱説明書と画面表記が異なる場合があります。プラグインの設定は「**6.5 プラグインの設定**」参照してください。
- 設定する内容は、画面のヘルプを参照してください。

検索機能

機器設定画面より、検索ができます。検索する項目は以下になります。

- メーカー
- 設定名称
- 機種
- プロトコル



3.1 XC-Gate.V3 帳票からデータの取得

XC-Gate.V3の帳票からデータを取得する設定をします。

- 1) ヘッダーにある「機器設定」をクリックします。



- 2) 「機器の追加」をクリックします。



- 3) プロトコルの選択をします。「メーカー」「機種」「プロトコル」を順番に選択し、「>次へ」をクリックします。



- 4) 機器設定の設定値を入力し、[接続テスト] をクリックします。

- 5) メッセージの「接続テストに成功しました。」を確認します。失敗している場合は、機器設定の設定値を見直してください。

- 6) [登録] ボタンをクリックします。

- 7) 登録が完了します。

- 8) [取得データの追加] ボタンをクリックします。

- 9) 機器設定の詳細を入力して、[接続テスト] をクリックします。

- ※ [項目設定]をクリックすると、「項目分割」画面が表示され、項目の詳細を設定できます。

【保存形式の違いについて】

- マスタ(項目)形式:特定の項目で一意となる保存形式です。指定した項目で検索が可能です。
- マスタ(時系列)形式:時系列にデータを保存します。検索時には期間の指定が必須となります。



ポイント

【項目の禁止文字】

- 機器設定の項目に以下の文字は設定できません。(予約語扱いとなるため)
id, trxCd, entryTimestamp, rowId, enable

- 10) メッセージの「接続テストに成功しました。」を確認します。失敗している場合は、機器設定の設定値を見直してください。

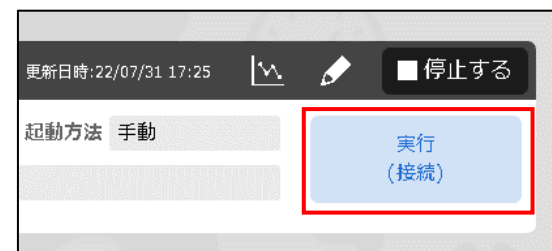
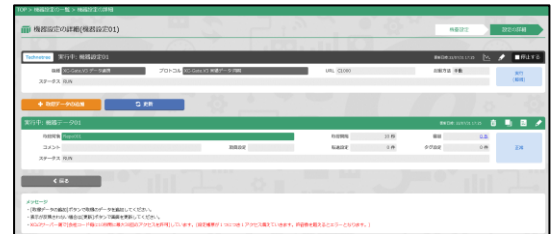
- 11) [登録] ボタンをクリックします。

- 12) 機器設定の登録が完了します。

13) 「起動する」ボタンをクリックします。



14) ステータスが「実行（接続）」となっている場合、正常に設定が完了しています。



3.2 PLC からデータの取得

PLCからデータを取得する設定をします。

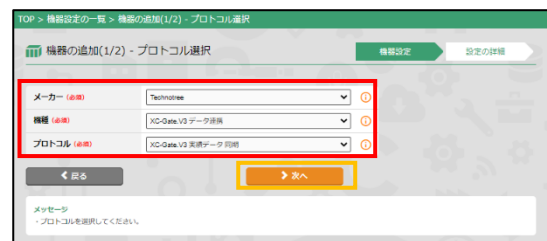
- 1) ヘッダーにある「機器設定」をクリックします。



- 2) 「機器の追加」をクリックします。



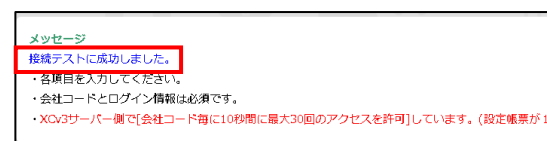
- 3) プロトコルの選択をします。「メーカー」「機種」「プロトコル」を順番に選択し、「>次へ」をクリックします。
接続したいPLCの機種が無い場合は、プラグイン追加にて対応できます。(「6システム設定」参照)



- 4) 機器設定の設定値を入力し、「接続テスト」をクリックします。



- 5) メッセージの「接続テストに成功しました。」を確認します。失敗している場合は、機器設定の設定値を見直してください。



- 6) 「登録」ボタンをクリックします。



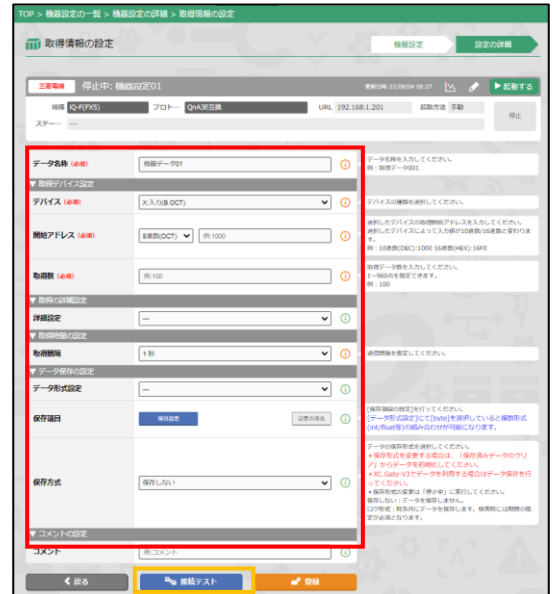
- 7) 登録が完了します。



- 8) 「取得データの追加」ボタンをクリックする。



- 9) 機器設定の設定値を入力して、「接続テスト」をクリックします。



- ※ 「項目設定」をクリックすると、「項目分割」画面が表示され、項目の詳細を設定できます。

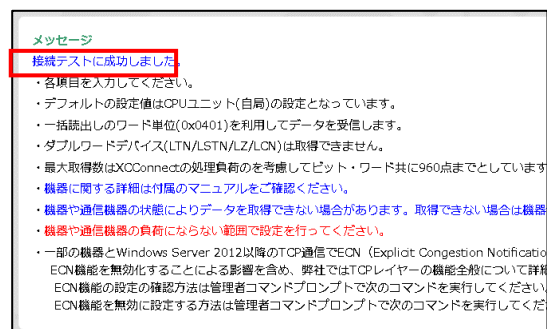


【保存形式の違いについて】



- マスタ(項目)形式: 特定の項目で一意となる保存形式です。指定した項目で検索が可能です。
- マスタ(時系列)形式: 時系列にデータを保存します。検索時には期間の指定が必須となります。

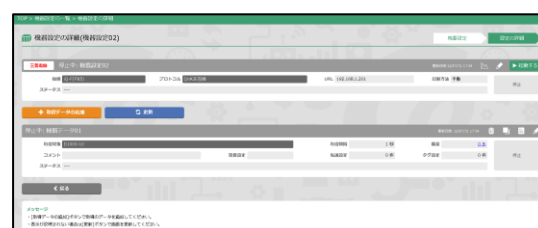
- 10) メッセージの「接続テストに成功しました。」を確認します。失敗している場合は、機器設定の設定値を見直してください。



- 11) 「登録」ボタンをクリックします。



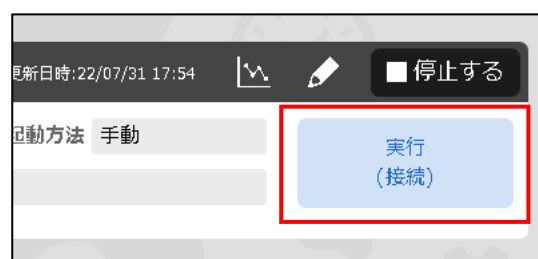
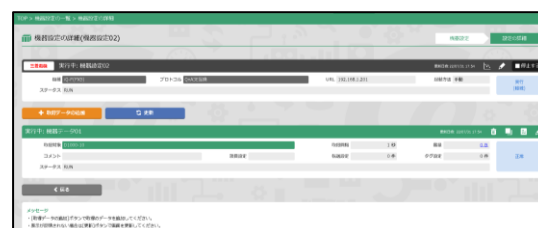
- 12) 機器設定の登録が完了します。



- 13) 「起動する」ボタンをクリックします。



- 14) ステータスが「実行（接続）」となっている場合、正常に設定が完了しています。



3.3 データベース(入力)からデータの取得

データベースからデータを取得する設定をします。



ポイント

データベースとの接続には JDBC ファイルの設定が必要です。
 連携先のデータベースにあった JDBC ファイルを設定してください。
 JDBC 設定の仕方は「**6.2 JDBC ファイルの設定**」を参照してください。

- 1) ヘッダーにある「機器設定」をクリックします。



- 2) 「機器の追加」をクリックします。



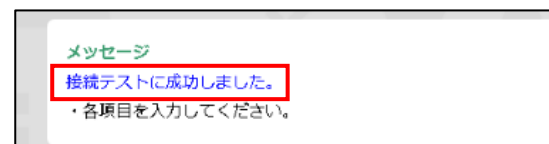
- 3) プロトコルの選択をします。「メーカー」「機種」「プロトコル」を順番に選択し、「>次へ」をクリックします。



- 4) 機器設定の設定値を入力し、「接続テスト」をクリックします。



- 5) メッセージの「接続テストに成功しました。」を確認します。失敗している場合は、機器設定の設定値を見直してください。



- 6) 「登録」ボタンをクリックします。



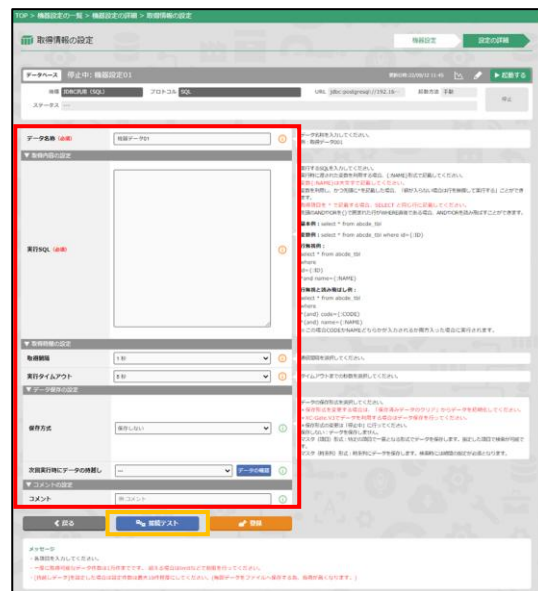
- 7) 登録が完了します。



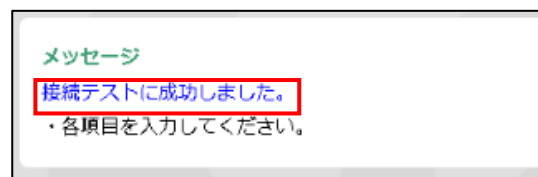
- 8) 「取得データの追加」ボタンをクリックする。



- 9) 取得情報の設定値を入力して、「接続テスト」をクリックします。



- 10) メッセージの「接続テストに成功しました。」を確認します。失敗している場合は、機器設定の設定値を見直してください。



- 11) 「登録」ボタンをクリックします。



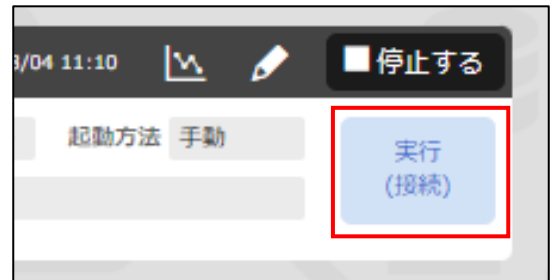
- 12) 機器設定の登録が完了します。



- 13) 「起動する」ボタンをクリックします。



- 14) ステータスが「実行（接続）」となっている場合、正常に設定が完了しています。



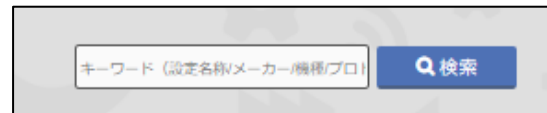
4 転送設定

XC-Connectの各種転送設定を説明します。

検索機能

転送設定画面より、検索ができます。検索する項目は以下になります。

- ・ メーカー
- ・ 設定名称
- ・ 接続先
- ・ プロトコル
- ・ データ元
- ・ 機器設定



4.1 XC-Gate.V3 実績データの登録

XC-Gate.V3の実績をデータとして直接転送（実績保存）する設定の流れについてのご説明となります。

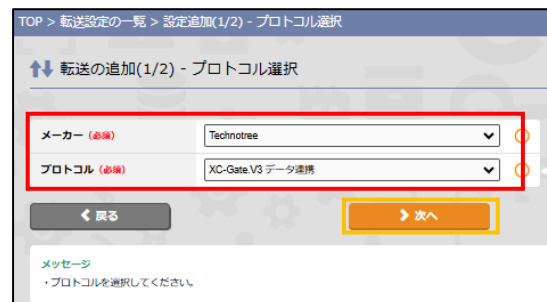
- 1) ヘッダーにある「転送設定」をクリックします。



- 2) 「転送の追加」をクリックします。



- 3) プロトコルの選択をします。「カテゴリ」「プロトコル」を順番に選択して、「次へ」をクリックします。



- 4) 設定値の入力をします。転送設定名称を入力して、機器データの「データを選択」をクリックします。

- 5) 使用する機器の「選択」をクリックします。

機器設定名	メーカー/機種	データ名	コメント	実行間隔	動作設定	コマンド
機器設定06	Technoware XC-Gate V3 データ連携	機器データ01	---	10000 ms	表示する	選択
機器設定05	Technoware XC-Gate V3 データ連携	機器データ01	---	10000 ms	表示する	選択
機器設定01	Technoware XC-Gate V3 データ連携	機器データ01	---	10000 ms	表示する	選択

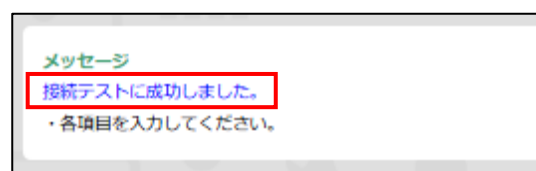
- 6) 出力先の設定をします。

- 7) 詳細設定を行う場合は「表示する」を選択すると詳細設定画面が表示します。

- 8) 起動方法を設定します。
「手動」または「自動」を選択します。

- 9) 設定値を入力して、[接続テスト] をクリックします。

- 10) メッセージの「接続テストに成功しました。」を確認します。失敗している場合は、転送設定の設定値を見直してください。



- 11) [登録] ボタンをクリックします。



- 12) 転送の設定が登録されます。

- 13) [起動する] ボタンをクリックします。

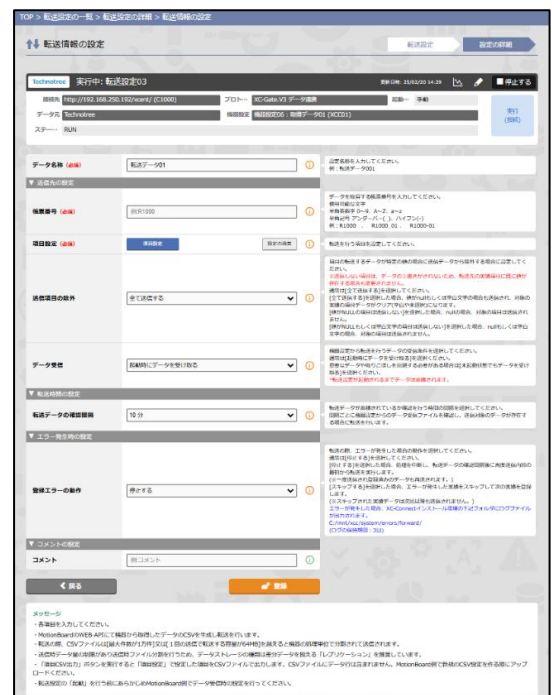
- 14) ステータスが「実行（接続）」となっている場合、正常に設定が完了しています。



- 15) [転送データの追加]ボタンをクリックします。



- 16) 転送情報の設定画面が表示します。



- 17) 送信先の設定の「帳票番号」に実績を転送するチェックシートのファイルIDを入力します。

- 18) [項目設定]をクリックし、転送する実績の項目を設定します。

- 19) 「項目設定」画面は表示されますので、転送したい実績の項目を「元データ項目」から選択します。

- 20) [確定]をクリックし、設定を登録します。

- 21) 登録が完了すると「設定あり」と表示されます。

- 22) 通常は転送するデータは「全て転送する」に設定されていますが、転送する項目の値が「NULL」または「空白」の場合、送信から除外する「送信項目の除外」を設定します。

- [全て送信する]: 値がNULLまたは空白文字の場合空白や未選択になります。
- [値がNULLの項目は送信しない]: NULLの場合、対象項目は送信されません。
- [値がNULLもしくは空白文字の項目は送信しない]: NULLまたは空白文字の場合、対象項目は送信されません。

- 23) データを受信するタイミングを「データ受信」で設定してください。

通常は[起動時にデータを受け取る]を設定します。常にデータを受信する必要がある場合は、[未起動状態でもデータを受け取る]を設定します。

- 24) 転送する対象のデータを確認して転送する時間の間隔を、「転送データの確認間隔」で設定します。

- 25) 転送時にエラーが発生した場合の動作を設定します。

- ・ 停止する: 転送を中止し、手順24)の確認間隔時間経過後、再度転送します。
- ・ スキップする: エラーとなった実績は転送されず、次の実績を転送します。

- 26) 登録する転送情報に対するコメントがあれば入力します。

- 27) 全ての設定・入力が完了したら[登録]ボタンをクリックし、設定を保存します。

- 28) 実行中の転送設定に、転送するデータの設定が追加されます。
- ※ データを転送する場合は転送設定を停止してから、再度起動してください。

TOP > 転送設定の一覧 > 転送設定の詳細

↑↓ 転送設定の詳細(転送設定03) 転送設定 設定の詳細

Technotree 実行中: 転送設定03 更新日時: 25/02/20 17:23 停止する

接続先 http://192.168.250.192/xcnet/ (C1000) プロトコル XC-Gate.V3 データ連携 起動方法 手動 実行 (接続)

データ元 Technotree 機器設定 機器設定D6: 取得データ01 (XCC02)

ステータス RUN

+ 転送データの追加 更新

実行中: 転送データ01 更新日時: 25/02/20 17:23 削除 編集

転送先 XCC01 転送データの確認間隔 10 分 コメント 容量 0 B 正常

ステータス RUN

戻る

メッセージ

- ・ [転送データの追加]ボタンで転送のデータを追加してください。
- ・ 表示が反映されない場合は[更新]ボタンで画面を更新してください。
- ・ XC-Gate.V3クラウドのサーバー側で[会社コード毎に10秒間に最大30回のアクセスを許可]しています。

4.2 XC-Gate.V3 帳票ヘデータの登録

PLCをはじめとする機器が持つデータや、別システムで管理しているデータ、データベース等の外部データをXC-Gate.V3の帳票へ表示するための設定の流れについてのご説明となります。

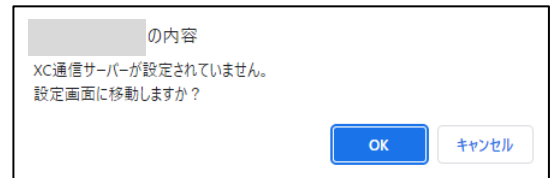
- 1) ヘッダーにある「転送設定」をクリックします。



- 2) 「転送の追加」をクリックします。



- ・ 転送サーバーが未登録の場合、右記のメッセージが出力されます。
- ・ また、TOP 画面には「転送設定でXC 連携サーバーの設定が完了していません。」と表示します。



- 3) プロトコルの選択をします。「カテゴリ」「プロトコル」を順番に選択して、「次へ」をクリックします。

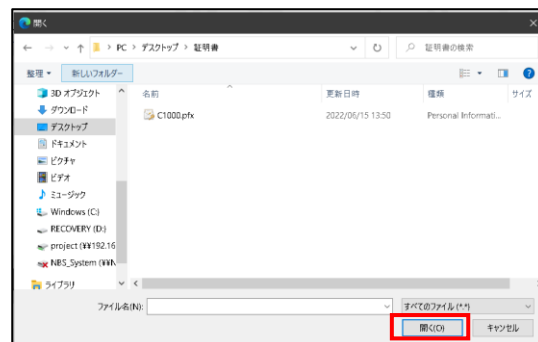


- 4) 設定値の入力をします。転送設定名称を入力して、証明書ファイルの「ファイルを選択してください」をクリックします。

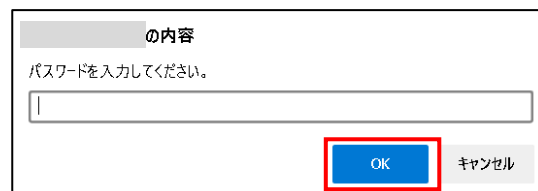


- 5) 証明書ファイルを選択して「開く」ボタンをクリックします。

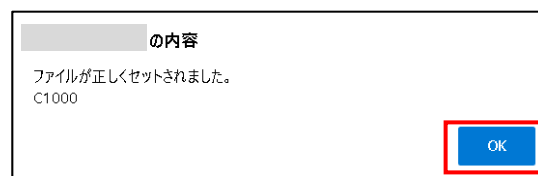
※ 証明書並びにパスワードについては、別途通知済みの「管理者サイト」をご参照ください。



- 6) パスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックします。



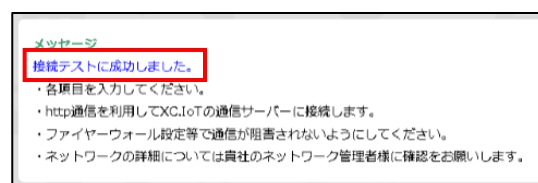
- 7) メッセージの「ファイルが正しくセットされました。」を確認して、「OK」ボタンをクリックします。



- 8) 設定値を入力して、「接続テスト」をクリックします。



- 9) メッセージの「接続テストに成功しました。」を確認します。失敗している場合は、転送設定の設定値を見直してください。



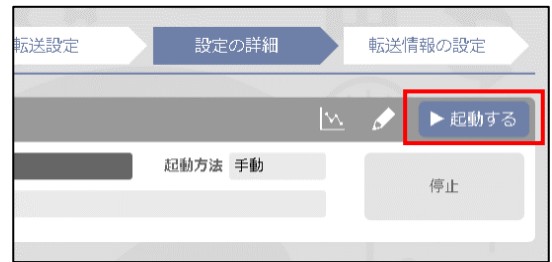
- 10) 「登録」ボタンをクリックします。



- 11) 転送の設定が登録されます。



12) 「起動する」ボタンをクリックします。



13) ステータスが「実行（接続）」となっている場合、正常に設定が完了しています。



4.3 データベース(出力)ヘデータの登録

各種データから、データベース（出力）ヘデータを送信する設定の流れのご説明となります。
転送先のデータベース、テーブル、項目等は事前に作成・設定しておく必要があります。

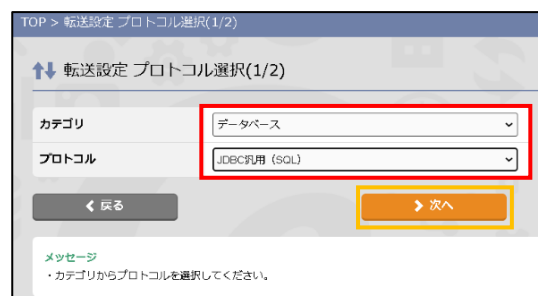
- 1) ヘッダーにある「転送設定」をクリックします。



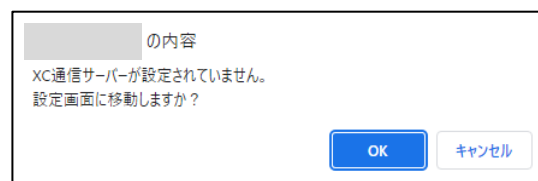
- 2) 「転送の追加」をクリックします。



- 3) プロトコルの選択をします。「カテゴリ」「プロトコル」を順番に選択して、「次へ」をクリックします。



- ・ 転送サーバーが未登録の場合、右記のメッセージが出力されます。
- ・ また、TOP 画面には「転送設定で XC 連携サーバーの設定が完了していません。」と表示します。



- 4) 設定の入力をします。転送設定名称を入力して、「データを選択」をクリックします。



- 5) 使用する機器の「選択」をクリックします。

- 6) 設定値を入力して「接続テスト」をクリックします。

- 7) メッセージの「接続テストに成功しました。」を確認してください。失敗している場合は、転送設定の設定値を見直してください。

- 8) 「登録」ボタンをクリックします。

- 9) 転送の設定が登録されます。

- 10) 「転送データの追加」ボタンをクリックします。

- 11) 転送情報設定の画面が表示されます。

- 12) 「データ名称」と「転送先 テーブル名」を入力して、[検索]ボタンをクリックします。

- 13) 「項目設定」ボタンをクリックします。

- 14) 項目設定画面が表示されるので、設定内容を入力して、[確定]ボタンをクリックします。

- a) 「更新キー」に指定すると同じ行の「項目名」に対して「元データ項目」の値で検索し、合致したデータを更新します。
複数選択した場合は、すべて合致したデータを更新します。合致しなかった場合は追加します。
- b) 「削除キー」に指定すると同じ行の「項目名」に対して「元データ項目」の値で検索し、合致したデータを削除します。
複数選択した場合は、すべて合致したデータを更新します。

更新キー	削除キー
---	---
---	---
---	---
---	---

- c) 「種別」で「元データの項目値」の種別を選択します。選択項目は以下になります。
- 項目: データの項目値を選択
 - 固定文字: 項目値に直接入力
 - 数式: 関数式を設定
(「4.4」「4.5」参照)

種別	元データ項目
項目	----
項目	----
固定文字	----
数式	----
項目	----
項目	----

- 15) 転送情報を入力して、[登録] ボタンをクリックします。

- 16) 転送設定が登録されます。

- 17) [起動する] ボタンをクリックします。

- 18) ステータスが「実行（接続）」となっている場合、正常に設定が完了しています。



4.4 項目設定(関数)

項目設定の「種別」で「数式」を選択した場合、「元データ項目」に[数式]ボタンが表示されます。

No	項目名	データ形式	更新キー	削除キー	種別	元データ項目	コメント
1	id	数値	---	---	数式	入力してください。 数式	項目名は固定です。
2	msg	文字	---	---	項目	---	項目名は固定です。
3	num	数値	---	---	項目	---	項目名は固定です。
4	decimal_number	数値	---	---	項目	---	項目名は固定です。

[数式]ボタンをクリックすると項目設定(関数)画面が表示します。

関数式: 1

変数テーブル: 2

実行: 実行結果: null

ヘルプメッセージ: 関数のヘルプ

⑤ 記述方法

「CTRL+スペース」キーで入力補助機能を表示できます。iOS等では「SHIFT+スペース」キーでも利用可能です。

入力補助機能は現在のカーソル位置の文字列で候補を絞り込み、表示されない場合は候補が存在しません。

文字列を使用する場合は、対象文字列を「"」で囲ってください。文字「"」を使用する場合は、「\"」と記述してください。使用例は「"abc"def」です。

項目値を取得する場合は、「{項目名}」と記述してください。

四則演算を行う場合は、「{項目1}+{項目2}」と記述してください。対応している四則演算は「+*/」で計算の優先度は乗除算が優先されます。

四則演算で優先度を上げる場合は、「({項目1}+{項目2})/2」と記述してください。

文字列を結合する場合は、「{項目1}&"ms"」と記述してください。

⑥ 戻る

⑦ 確定

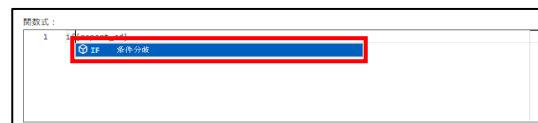
メッセージ

・各項目を入力してください。

No.	項目	概要
1	関数式	数式を記述します。(関数については「4.5」参照)
2	変数テーブル	元データ(転送設定に使用している機器のデータ)の項目一覧を表示します。
3	実行	設定した数式を実行します。
4	実行結果	③で実行した結果値を表示します。
5	ヘルプメッセージ	関数の説明を表示します。(関数については「4.5」参照)
6	戻る	数式を保存せずに、項目設定画面に戻ります。
7	確定	数式を保存し、元データ項目に設定します。

関数式の補助機能

- 関数式に関数を入力すると、関数入力補助機能が表示されます。
- 補助機能の右にある「>」をクリックすると関数の説明内容が表示されます。

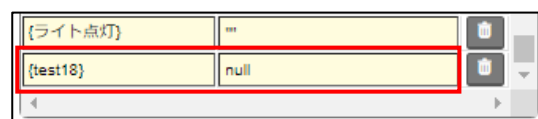
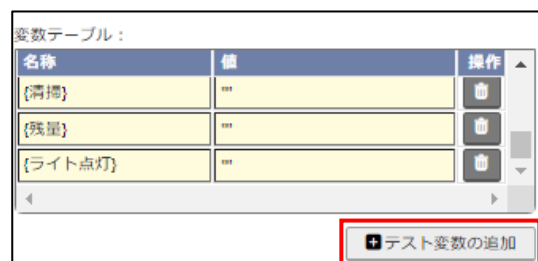
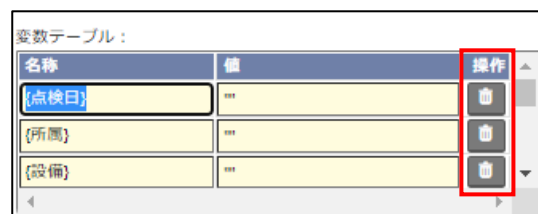


ポイント

補助機能は、「Ctrl」+「スペース」キーでも表示します。

変数テーブルの操作

- 変数テーブルは任意で直接入力できます。また削除する場合は、「操作」列にあるごみ箱ボタンをクリックすることでテーブルを削除できます。
- 変数テーブルの下部にある[テスト変数の追加]をクリックすることにより、テーブルを追加できます。



4.5 転送設定で利用できる関数一覧

転送設定で利用できる関数は以下になります。

4.5.1 論理

No.	関数名	捕捉説明	書式の例
1	IF	条件による分岐を行う関数です。 注意点: 1 番目の引数に論理型以外が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: NULL、文字列型、数値型、論理型、配列型	IF(1=1,"OK","NG")
2	AND	複数条件がすべて真なら TRUE を返す関数です。 注意点: 引数がすべて論理型ではない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 論理型	AND(1=1,{項目 01}="ああ")
3	OR	複数条件で一つでも真なら TRUE を返す関数です。 注意点: 引数がすべて論理型ではない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 論理型	OR(2=1,{項目 01}="ああ")
4	NOT	引数が TRUE の場合は FALSE、FALSE の場合は TRUE を返します。 注意点: 引数に論理型以外が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 論理型	NOT(1=1)
5	TRUE	常に TRUE を返す関数です。 戻り値情報: 論理型	true
6	FALSE	常に FALSE を返す関数です。 戻り値情報: 論理型	false
7	NZ	引数を評価し、NULL 以外の値があればそれを返します。 戻り値情報: NULL、文字列型、数値型、論理型、配列型	NZ(NULL,"TEST")

4.5.2 文字列操作

No.	関数名	捕捉説明	書式の例
1	VALUE	文字列を数値に変換して返します。 日付、時刻は基本的な書式パターンにのみ対応しています。 注意点: yyyy/mm/dd、hh:mm:ss、 yyyy 年 mm 月 dd 日 hh 時 mm 分 ss 秒 変換に失敗した場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	VALUE("¥3,000,000")
2	LEFT	文字数を指定し、先頭(左端)から指定した文字数分の文字列を抽出します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 文字列型	LEFT("asd",2)
3	RIGHT	文字数を指定し、末端(右端)から指定した文字数分の文字列を抽出します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 文字列型	RIGHT("sda",2)

No.	関数名	捕捉説明	書式の例
4	MID	指定した位置から指定した文字数分の文字列を抽出します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 文字列型	MID("fsd",2,2)
5	SUBSTITUTE	文字列中の指定した文字を別の文字に置き換えます。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 文字列型	SUBSTITUTE("abcde", "c", "9")
6	UPPER	英字を大文字に変換します。 注意点: 引数が配列型の場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 文字列型	UPPER("ahjH")
7	LOWER	英字を小文字に変換します。 注意点: 引数が配列型の場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 文字列型	LOWER("ahjH")
8	LEN	文字数を返します。 注意点: 引数が配列型の場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	LEN("asds")
9	TRIM	文字列の両端のスペースを削除します。 文字列の途中に存在する連続スペースを一つのスペースに置き換えます。 注意点: 引数が配列型の場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 文字列型	TRIM(" ads add ")
10	TEXT	数値を指定した書式に変換して返します。 使用可能な 0、0.0、#、##、0%、%#、0,0、¥0、¥0,0、 表示形式: #, #, ¥#, ¥#, #, @, yyyy/mm/dd hh:mm:ss、 yyyy/mm/dd, hh:mm:ss, yyyymmdd、 hhmmss, yyyymmddhhmmss, yyyy 年 mm 月 dd 日 hh 時 mm 分 ss 秒, yyyy 年 mm 月 dd 日, hh 時 mm 分 ss 秒 注意点: 変換に失敗した場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 文字列型	TEXT(43467, "yyyy/mm/dd")

4.5.3 日付/時刻

No.	関数名	捕捉説明	書式の例
1	DATE	指定した年月日をシリアル値で返す関数です。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	DATE(2000,2,1)
2	YEAR	指定したシリアル値から年を返します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	YEAR(40000)
3	MONTH	指定したシリアル値から月を返します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	MONTH(40000)
4	DAY	指定したシリアル値から日を返します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	DAY(40000)

No.	関数名	捕捉説明	書式の例
5	TIME	時、分、秒の数値から時間・時刻のシリアル値を返す関数です。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	TIME(12,2,2)
6	HOUR	指定したシリアル値から時間のみを整数で返します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	HOUR(0.32452)
7	MINUTE	指定したシリアル値から分のみを整数で返します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	MINUTE(0.32432)
8	SECOND	指定したシリアル値から秒のみを整数で返します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	SECOND(0.32435)
9	DATEVALUE	使用できる形式は以下です。 yyyy/mm/dd、yyyy 年 mm 月 dd 日に対応しています。 注意点: 基本的な書式パターンしか対応していません。 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	DATEVALUE("2000/1/4")
10	TIMEVALUE	使用できる形式は以下です。 hh 時 mm 分 ss 秒、hh:mm:ss に対応しています。 注意点: 基本的な書式パターンしか対応していません。 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	TIMEVALUE("8:12:40")
11	WEEKDAY	日付に対応する曜日を数値にして返します。 1(日曜日)～7(土曜日)を返します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	WEEKDAY(40000,1)
12	TODAY	現在の日付をシリアル値で返す関数です。 戻り値情報: 数値型	TODAY()
13	NOW	現在の日付と時刻をシリアル値で返す関数です。 戻り値情報: 数値型	NOW()
14	EPOCHDATE	指定した年月日をエポックミリ秒で返す関数です。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	EPOCHDATE(2000,2,1)
15	EPOCHYEAR	指定したエポックミリ秒から年を返します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	EPOCHYEAR(40000)
16	EPOCHMONTH	指定したエポックミリ秒から月を返します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	EPOCHMONTH(40000)
17	EPOCHDAY	指定したエポックミリ秒から日を返します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	EPOCHDAY(40000)

No.	関数名	捕捉説明	書式の例
18	EPOCHTIME	時、分、秒の数値から時間・時刻のエポックミリ秒を返す関数です。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	EPOCHTIME(12,2,2)
19	EPOCHHOUR	指定したエポックミリ秒から時間のみを整数で返します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	EPOCHHOUR(32452)
20	EPOCHMINUTE	指定したエポックミリ秒から分のみを整数で返します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	EPOCHMINUTE(32432)
21	EPOCHSECOND	指定したエポックミリ秒から秒のみを整数で返します。 注意点: 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	EPOCHSECOND(32435)
22	EPOCHDATEVALUE	使用できる形式は以下です。yyyy/mm/ddに対応しています。 注意点: 基本的な書式パターンしか対応していません。 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	EPOCHDATEVALUE("2000/1/4")
23	EPOCHTIMEVALUE	使用できる形式は以下です。hh:mm:ssに対応しています。 注意点: 基本的な書式パターンしか対応していません。 引数に予期せぬ値が指定された場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	EPOCHTIMEVALUE("8:12:40")
24	EPOCHNOW	現在の日付と時刻をエポックミリ秒で返す関数です。 戻り値情報: 数値型	EPOCHNOW()

4.5.4 数学/三角

No.	関数名	捕捉説明	書式の例
1	TRUNC	切り捨て関数です。Excelとは違い、桁数指定には対応していません。桁数指定する場合は、ROUND関数を使用します。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	TRUNC(30.9)
2	INT	切り捨てて整数にした値を返します。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	INT(2.3)
3	PI	3.141592…を返します。 戻り値情報: 数値型	PI()
4	ABS	指定したセルに入力されている値の絶対値を返す関数です。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	ABS(-10)

No.	関数名	捕捉説明	書式の例
5	MOD	割り算をしたときの余りを返す関数です。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	MOD(20,6)
6	SQRT	平方根を返します。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	SQRT(4)
7	POWER	数値を累乗した値を返します。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	POWER(2,3)
8	SIN	指定した角度のサイン(sin)を返す関数です。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	SIN(2)
9	COS	指定した角度のコサイン(cos)を返す関数です。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	COS(2)
10	TAN	指定した角度のタンジェント(tan)を返す関数です。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	TAN(2)
11	DEGREES	指定したラジアンを角度で返す関数です。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	DEGREES(3.14)
12	RADIANS	指定した角度(度数)のラジアンを返す関数です。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	RADIANS(200)
13	RAND	0 以上で 1 より小さい実数を返す関数です。 戻り値情報: 数値型	RAND()
14	ROUND	指定した値の四捨五入による結果を返す関数です。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	ROUND(1.24,1)
15	ROUNDDOWN	指定した値の切り捨てによる結果を返す関数です。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	ROUNDDOWN(1.24,1)
16	ROUNDUP	指定した値の切り上げによる結果を返す関数です。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	ROUNDUP(1.24,1)

※1 文字列でも「1」「01」など数値であれば計算します。

4.5.5 エンジニアリング

No.	関数名	捕捉説明	書式の例
1	DEC2BIN	10 進数を 2 進数に変換して返します。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 文字列型	DEC2BIN(50)
2	BIN2DEC	2 進数を 10 進数に変換して返します。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	BIN2DEC(1010)
3	DEC2OCT	10 進数を 8 進数に変換して返します。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 文字列型	DEC2OCT(100)
4	OCT2DEC	8 進数を 10 進数に変換して返します。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	OCT2DEC(100)
5	DEC2HEX	10 進数を 16 進数に変換して返します。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 文字列型	DEC2HEX(2000)
6	HEX2DEC	16 進数を 10 進数に変換して返します。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	HEX2DEC("AAA")

4.5.6 情報

No.	関数名	捕捉説明	書式の例
1	ISTEXT	引数が文字列型の場合は TRUE を返します。 戻り値情報: 論理型	ISTEXT("aaa")
2	ISNUMBER	数値の場合は TRUE を返す関数です。 戻り値情報: 論理型	ISNUMBER(300)
3	ISLOGICAL	引数が論理値(TRUE、FALSE)の場合は TRUE を返します。 戻り値情報: 論理型	ISLOGICAL(FALSE)
4	ISBLANK	引数が未入力(空白)の場合は TRUE を、それ以外は FALSE を返します。 戻り値情報: 論理型	ISBLANK(NULL)
5	ISERROR	エラーの場合は TRUE を返す関数です。 戻り値情報: 論理型	ISERROR(LEN({項目 01}))
6	TYPE	引数が数値型の場合は 1、文字列型の場合は 2、論理型の場合は 4、エラー型の場合は 16、配列型の場合は 64、値が未入力状態の場合は NULL を返す関数です。 戻り値情報: NULL または数値型	TYPE("AAA")

4.5.7 その他

No.	関数名	捕捉説明	書式の例
1	CEILING	基準値の倍数のうち最も近い値に切り上げた数値を返します。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	CEILING(1.2,2)
2	FLOOR	基準値の倍数のうち最も近い値に切り捨てた値を返します。 注意点: 引数を数値型に変換できない場合はエラーが発生します。 戻り値情報: 数値型	FLOOR(1.2,2)

5 タグ設定

転送設定により送信設定したデータにタグ設定を行うことで、XC-Gate.V3の帳票へ反映する流れの説明をします。

1) ヘッダーにある「タグ設定」をクリックします。



2) 「タグ設定の追加」ボタンをクリックします。



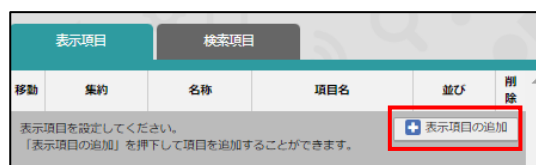
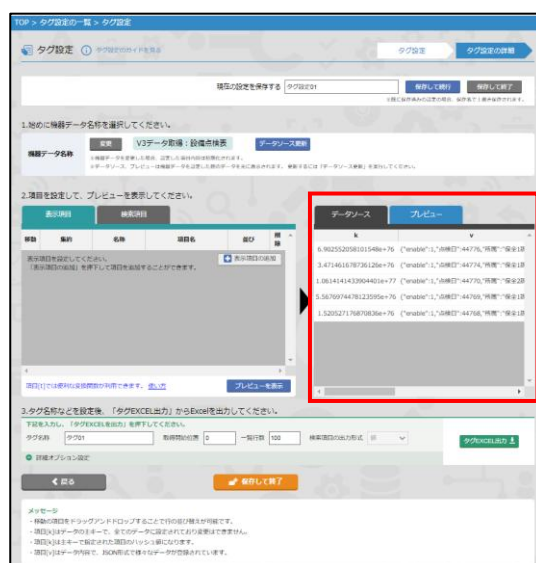
3) 機器データ名称の「選択」をクリックします。



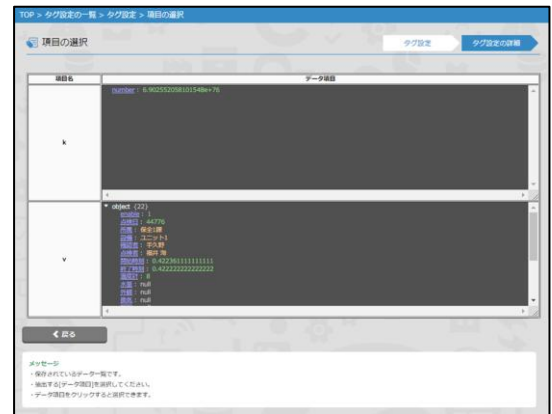
4) 取得する機器設定の「選択」をクリックします。



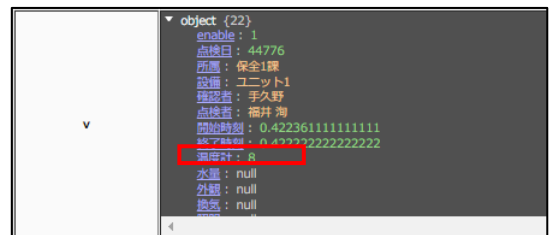
5) データソースに取得するデータが表示されているのを確認して、「表示項目の追加」ボタンをクリックします。



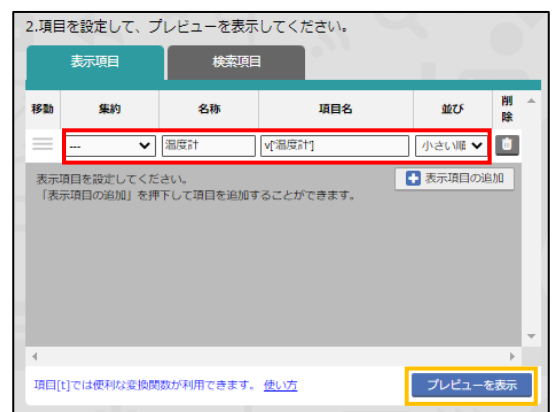
- 6) 項目の選択画面が表示されます。XC-Gate.V3帳票に表示させるデータを選択します。



- 7) XC-Gate.V3帳票に表示させるデータを選択します。



- 8) 項目の情報を入力して、[プレビューを表示]をクリックします。



- 9) 「プレビュー」に、取得するデータが表示できていることを確認します。

※ 複数の項目について、データを取得する場合は、手順5)~9)を繰り返します。



- 10) 「タグ名称」と詳細オプション設定を入力して[タグEXCEL出力]をクリックします。



- 11) タグが入力されたサンプル帳票がダウンロードされます。

Windowsのデフォルトの設定では、ダウンロードフォルダにサンプル帳票 (Excelファイル) 「xcc_tag.xlsx」をダウンロードします。

※ 同一ファイルがある場合は、数値が付く場合があります。「xcc_tag(1).xlsx」



- 12) 「xcc_tag.xlsx」を開いて、「コネクト」タグと、「コネクト項目」をコピーし、作成中のExcel帳票に張り付けます。

※ コネクト項目タグに、機器から取得したデータが表示されます。

No.	タグ
1	コネクト項目

- 13) タグ設定の「現在の設定を保存する」に名称を入力後、[保存して終了]をクリックします。

- 14) 一覧に表示されている場合、正常に設定が完了しています。

コネクト項目タグのオフライン利用について

利用者画面（オンライン）でコネクト項目を取得した実績と対象の帳票をダウンロードし、利用者画面（オフライン）で開いた場合、ダウンロードしたデータを取得した状態で実績をオフラインで利用することが可能です。

ただし、利用者画面（オフライン）にてコネクトタグのボタンを押下した場合、通信できないためエラーダイアログが表示され、最新のデータは取得できません。

上記の処理を行った場合も、ダウンロードしたコネクト項目タグの値は保持されます。

6 システム設定

システム設定画面では「パスワード/キーワードの設定」「証明書の作成」「JDBCファイル/プラグインの設定」を行うことができます。

- 1) ヘッダーにある「システム設定」をクリックします。



- 2) 各種設定画面が表示されます。

TOP > システム設定

システム設定

システム情報

システムバージョン	VERSION 1.3.0 (D.2411122)	①	XC-Connectのシステムバージョンを表示しています。
データフォルダパス	C:\ntvxxx	①	XC-Connect のデータ格納フォルダのパスを表示しています。 XC-Connect をインストールしたサーバーのパスになります。 この設定を変更することはできません。
システム状況の確認	状況の確認	①	XC-Connect の稼働しているCPUやメモリ等の状況を確認できます。
オープンソースについて	サードパーティライセンス表示	①	サードパーティライセンスを別ウィンドウで表示します。

パスワード/キーワード設定

パスワード設定	--	①	パスワードを変更する場合は「変更する」を選択し、 新規パスワードを入力してください。 *未入力の場合は更新されません。
キーワード設定	--	①	キーワードを変更する場合は「変更する」を選択し、 新規キーワードを入力してください。 *未入力の場合は更新されません。 ※ キーワードはパスワードを忘れた場合の再設定時に使用します。
登録			

設定のエクスポート/インポート

エクスポート	エクスポート	①	取得データが格納されていない状態で実行してください。 取得データの保存にて設定データの取り出しが完了します。 エクスポートを実行する際は取得データを確認してから実行してください。 また、実行中の操作は行わないでください。
インポート	インポート	①	インポートする際は取得データの重複が追加しないようにご注意ください。 設定が追加することにより実行が正常に動作する場合があります。 インポートの実行中に設定が追加される際は同様の設定を作成されないようご注意ください。

データ保存設定

データ保存	データ保存	①	機器設定で指定したデータの保存について設定できます。
-------	-------	---	----------------------------

証明書の作成

証明書	証明書ファイル作成	①	機器、転送設定の連携先の端末で利用する証明書を作成できます。
-----	-----------	---	--------------------------------

JDBCファイル / プラグイン設定

JDBCファイル	JDBCファイル設定	①	JDBCの追加、削除はシステムの再起動時に反映されます。 追加、削除後は必ずシステムの再起動をお願いします。 同一のJDBCにてバージョン違いをアップロードする場合は、 必ず前のバージョンを削除してから実行してください。
プラグイン	プラグイン設定	①	プラグインの追加、削除はシステムの再起動時に反映されます。 追加、削除後は必ずシステムの再起動をお願いします。 同一のプラグインでバージョン違いをアップロードする場合は、 必ず前のバージョンを削除してから実行してください。

システムの再起動

再起動	再起動	①	JDBCファイルやプラグインの登録、削除を行った場合、 システムの再起動が必要です。 再起動中は機器や転送の連携は行われませんのでご注意ください。 パスワード、キーワードの変更を行った場合、変更内容は登録してから再起動してください。 登録時にシステムの再起動を行った場合、変更内容は登録されません。
-----	-----	---	---

メッセージ

- ・システムの設定画面です。
- ・ログインパスワードとキーワードは暗号化された状態で保存される為、確認はできません。
- ・[JDBCファイル設定]ボタンから機器、転送のプロトコルで使用するJDBCファイルの追加、削除が可能です。
- ・[プラグイン設定]ボタンから機器、転送のプロトコルで使用するプラグインの追加、削除が可能です。
- ・JDBCファイル、プラグインの追加、削除後はシステムの再起動が必要です。

No.	分類	項目	概要
1	システム情報	システムバージョン	XC-Connect のシステムバージョンとなります。
		データフォルダパス	XC-Connect のデータ格納フォルダのパスを表示しています。
		システム状況の確認	XC-Connect のリソース状態を確認できます。(「6.1」参照)
		オープンソースについて	別ウィンドウで、サードパーティのライセンスを表示します。
2	パスワード/ キーワード設定	パスワード	XC-Connect にログオンするためのパスワードを設定します。
		キーワード	XC-Connect のキーワードを設定します。 パスワードを忘れた場合に使用します。
3	設定のエクスポート/ インポート	エクスポート	各設定の内容をエクスポートします。
		インポート	各設定内容をインポートします。
4	データ保存設定	データ保存	機器設定の取得データの保存方法を設定します。(「6.4」参照)
5	証明書の作成	証明書	接続する外部データで、XC-Connect の証明書が必要な場合に、明書を作成することができます。
6	JDBC ファイル/ プラグイン設定	JDBC ファイル	データベースに接続する JDBC を登録します。 接続できるデータベースの種類を増やすときに使用します。(「6.2」参照) JDBC ファイルの設定
		プラグイン	外部データのプラグインを登録します。 接続できる機器やサービスの種類を増やすときに使用します。(「6.5」参照)
7	システムの再起動	再起動	XC-Connect を再起動します。

6.1 システム状況の確認

現時点のXC-Connectのリソース状態（CPU使用率/物理メモリ使用率/ディスク容量）を確認できます。

- 1) システム情報から[状態の確認]をクリックします。



- 2) システムの状況確認画面が表示されますので、内容を確認します。



No.	各部名称	概要
1	CPU 使用率	各 CPU の使用率をグラフで表示します。
2	物理メモリ	空き領域と使用率を表示します。
3	ディスク容量	空き領域と使用率を表示します。
4	戻る	システム設定画面に戻ります。

6.2 JDBC ファイルの設定

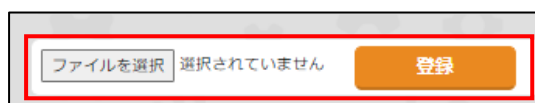
- 1) システム設定画面より[JDBC設定]をクリックします。



- 2) JDBCファイル設定の画面が表示されます。



- 3) 「ファイルを選択」よりJDBCファイルを選択し、[登録]をクリックします。



- 4) JDBCファイルが登録されます。



ポイント

- JDBC ファイルの登録後は、システムの再起動を行ってください。
- バージョンの違う JDBC を登録する場合、上書きせずに前のファイルを削除してから登録してください。

6.3 設定のエクスポート/インポート

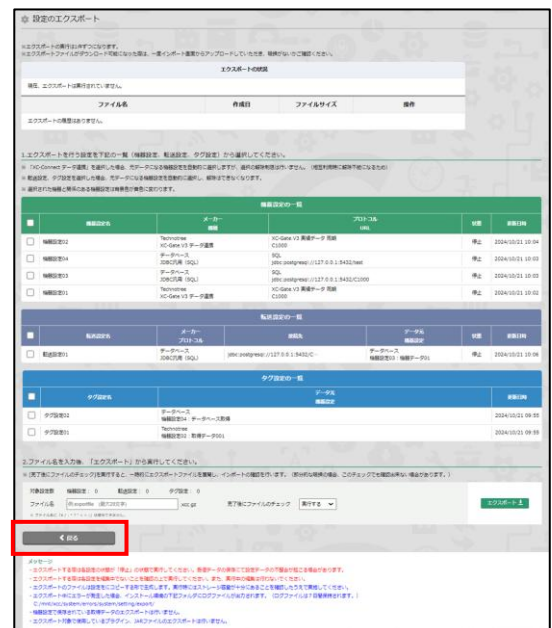
「機器設定」「転送設定」「タグ設定」の各設定内容をエクスポートまたはインポートします。
各設定が起動していない状態で行ってください。

6.3.1 設定のエクスポート

- 1) 「設定のエクスポート/インポート」より[エクスポート]をクリックします。



- 2) 「設定のエクスポート」画面が表示されます。
システム設定画面へ移動する場合は[戻る]をクリックしてください。



- 3) エクスポートする設定にチェックをします。



- チェックをした設定と連動している設定は自動でエクスポート対象になります。



- 4) エクスポートするファイルの「ファイル名」を入力します。

※ ファイル名に「\ / : * ? " < > |」は使用できません。

- 5) エクスポート後、圧縮ファイルの展開確認を実行するかしなかを選択します。

※ [完了後にファイルのチェック]を実行すると、一時的にエクスポートファイルを展開し、インポートの確認を行います。(部分的な破損の場合、このチェックでも確認出来ない場合があります。)

- 6) [エクスポート]をクリックし、処理を実行します。

- 7) [OK]をクリックします。

- 8) エクスポートの実行状況が表示されます。エクスポートを停止させたい場合は、[中断]をクリックしてください。

- 9) エクスポートが完了します。[ダウンロード]をクリックし、ファイルをダウンロードします。

<エクスポートファイルの削除>

エクスポートを実行したファイルは「設定のエクスポート」画面に履歴として表示されます。不要になったエクスポートしたファイルは、必要に応じて削除してください。

6.3.2 設定のインポート

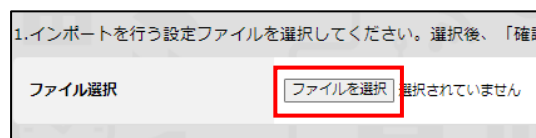
- 1) 「設定のエクスポート/インポート」より[インポート]をクリックします。



- 2) 「設定のインポート」画面が表示されます。システム設定画面へ移動する場合は[戻る]をクリックしてください。



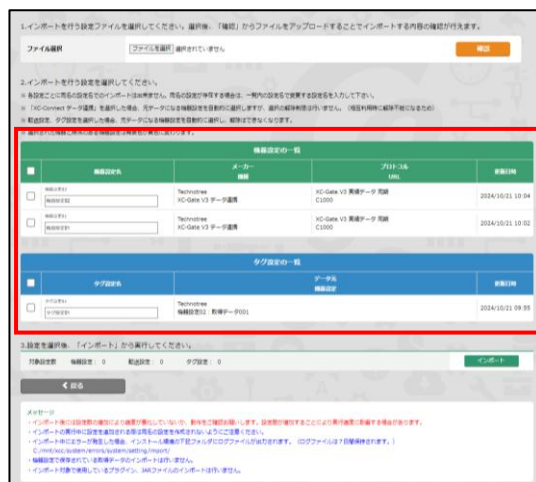
- 3) 「ファイル選択」で「6.3.1」でダウンロードした、インポートするファイルを設定します。



- 4) ファイルを設定し、[確認]をクリックします。



- 5) ファイル内の設定内容が表示されます。



- 6) インポートする設定にチェックをします。



- チェックをした設定と連動している設定は自動でインポート対象になります。

7) 各設定名を変更します。

- 設定名が既に存在する場合、インポート時にエラーが表示します。

8) [インポート]をクリックし、処理を実行します。

9) [OK]をクリックします。

10) インポートの実行状況が表示されます。インポートを停止させたい場合は、[中断]をクリックしてください。

11) インポートが完了します。

6.4 データ保存設定

機器設定で取得したデータを保存する設定をします。

- 1) システム設定画面より[データ保存]をクリックします。

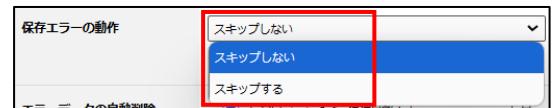


- 2) データ保存設定の画面が表示されます。



- 3) 機器設定で取得したデータを保存するとき、エラーが発生した場合の動作を選択します。

- [スキップしない]を選択した場合、成功するまでエラーが発生したデータの保存を行います。
- [スキップする]を選択した場合、エラーが発生したデータを処理せず次のデータを保存します。



- 4) 保存に失敗した機器設定の取得データの自動削除を行うか選択します。

「する」を選択した場合、データを保存しておく日数を指定してください。



エラーデータ一覧

エラーデータの確認

エラーデータ一覧

データ保存設定で、機器設定で取得したデータ保存時のエラーを「スキップする」に設定した場合に、保存に失敗した機器設定の取得データを表示します。

✱ エラーデータ一覧

①

② 機器設定での保存でエラーとなったデータの一覧

	機器設定名	機器データ名	保存エラーデータのファイル名	エラー発生日時
<input type="checkbox"/>	機器設定02	<<削除済>>	1710293847126.json	25/02/27 11:59
<input type="checkbox"/>	機器設定02	<<削除済>>	1782374652838.json	25/02/27 11:59
<input checked="" type="checkbox"/>	機器設定02	機器データ01	1738145152258.json	25/02/27 11:59
<input checked="" type="checkbox"/>	機器設定02	機器データ01	1738204257806.json	25/02/27 11:59
<input type="checkbox"/>	機器設定01	機器データ01	1234145152258.json	25/02/27 11:59
<input type="checkbox"/>	機器設定01	機器データ01	1738204321456.json	25/02/27 11:59
<input type="checkbox"/>	機器設定01	機器データ02	1701928374806.json	25/02/27 11:59
<input type="checkbox"/>	機器設定01	機器データ02	1738109876258.json	25/02/27 11:59

③ エクスポート ↓ ④ 削除

⑤ < 戻る

メッセージ
・[機器設定での保存でエラーとなったデータの一覧]には、データ保存設定画面の保存エラーの動作で[スキップする]が選択された状態で、保存に失敗した機器設定の取得データを一覧表示しています。

No.	各部名称	概要
1	エラーデータ一覧	機器設定での保存でエラーとなったデータの一覧。
2	チェックボックス	エラーデータを選択するチェックボックスです。
3	エクスポート	チェックボックスにチェックされているエラーデータをエクスポートします。
4	削除	チェックボックスにチェックされているエラーデータを削除します。
5	戻る	データ保存設定画面に戻ります。

6.5 プラグインの設定

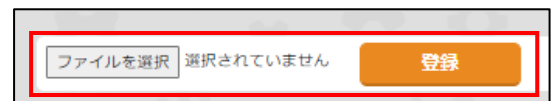
- 1) システム設定画面より[プラグイン設定]をクリックします。



- 2) プラグイン設定の画面が表示されます。



- 3) 「ファイルを選択」よりプラグインファイルを選択し、[登録]をクリックします。



- 4) プラグインファイルが登録されます。



- プラグインファイルの登録後は、システムの再起動を行ってください。
- バージョンの違うプラグインを登録する場合、上書きせずにファイルを削除してから登録してください。

7 制限事項

7.1 XC-Gate.V3 クラウドサーバへのアクセス制限

- 機器設定でXC-Gate.V3帳票からデータの取得を行う場合、または転送設定でXC-Gate.V3帳票へデータの登録を行う場合、XC-Gate.V3クラウドのサーバー側では、会社コードごとに10秒間に最大30回アクセスを許可しています。
- XC-Gate.V3クラウドのサーバー側では、機器設定で取得する際、1回のアクセスで取得するデータ件数は3件までとなります。

7.2 コネクトタグの実行制限

- コネクトタグを複数回実行する場合は、少し間隔を空けてください。コネクトタグは5秒間に1回の実行を許可しています。



テクノツリーへのご意見・ご要望がございましたらお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせサイト：

https://support.technotree.co.jp/techno_support/



- 本書に記述されている画像は実際と異なることがあります。
- 記述内容は予告なしに変更されることがあります。
- 本書の無断転載はご遠慮ください。